

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1297900019		
法人名	医療法人美篤会		
事業所名	グループホーム和季		
所在地	千葉県安房郡鋸南町保田334~2		
自己評価作成日	平成24年8月1日	評価結果市町村受理日	平成24年9月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会		
所在地	世田谷区弦巻5-1-33-602		
訪問調査日	平成24年8月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の方、面会の方、家族の方どなたにも元気で明るく親切に接する心がけています。医療連携が出来ているので、これからの看取り介護にも家族、本人、スタッフの安心へと繋がっています。
 残存能力を活かす為能力に応じた生活リハビリ、理学療法士(ボランティア)による運動メニューを作って頂き体操を行っています。

1. JR保田駅から徒歩10分の閑静な住宅街の中の、広大なお寺の敷地内に立地し、緑地、日当たり、風通し等環境に非常に恵まれています。
2. 健康面、医療面に力を入れており、食後の口腔ケア、体操、リハビリ体操、足湯の他、訪問看護師が毎週来所し、内科医による定期健康診断も毎月実施しています。
3. サービス面では、家庭的雰囲気の中、利用者のペースに合わせて、利用者によれる事はやって頂き、宗教の自由を尊重する等利用者本位のサービスを心がけています。
4. 最近看取りを行い、今後も一層体制を充実するように努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域とのふれあいを大切にして入居者の安心と安全を第一に考え、心から家族と思えるサービスに専念する事としています。	理念には「地域とのふれあいを大切にして」と、グループホームの地域密着型の主旨が織り込まれています。管理者、職員はミーティングや月1回の職員会議で確認し、日ごろのサービスで理念の実践を心がけています。	
(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くに畑を作っている方達との交流を楽しみにしています。また、小さい子供さんを連れて散歩している若いママさんと子供さんとの交流も楽しみにしています。	地域主催の行事(夏祭り等)にも積極的に参加しています。地域の方の助けを借りて、家庭菜園(ナス、キュウリ、トマト、カボチャ等)も作っています。又ボランティア(理学療法士)によるリハビリ運動も行っており、着実に地域に密着した活動が行われています。	
	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	個々のお買い物やホームでの食料品など一緒に買い物に出かけ、商店の方とお話して理解を深めています。		
(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ケアマネの交代等あり思う様に行かず、元に戻っての会議を行い、そこでの意見は、サービス向上に活かしている。	年3回の運営推進会議には、鋸南町役場、地域包括支援センター、区長、民生委員、老人会、家族、管理者、職員が参加しています。議題は、グループホームの現状報告の他、看取りの考え方、防災時の避難対策等について、活発な話し合いが行われています。	今後は時間をかけ、年6回開催を目標にして、サービスの向上に活かす事が期待されます。
(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター主催の勉強会・研修などに積極的に参加し日頃から福祉課のかたに質問や相談をし連絡を取り合っています。	地域包括支援センター主催の勉強会・研修には積極的に参加しています。役場の担当者とは、常に連絡を取り相談にのってもらっています。運営推進会議には、役場および地域包括支援センター双方の出席があり、密接な協力関係が築かれています。	
(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居時に家族にも「ここでは拘束はしない」という方針を伝えています。玄関は、要望があるときは、スタッフと一緒に出られますが、近くに踏み切りやダンプカーが通る街道があるため、安全を考えて閉めています。	運営方針で身体拘束排除宣言を謳い、マニュアルを作成し、職員は社内外で研修を受けています。安全性を考慮し、玄関は閉めています。家族の理解を得て、地域包括支援センターと連携の上実施しています。	
	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時など身体面の観察をし常に異常がないか注意しています。外泊後の身体も注意しています。		

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が研修に行ったので、ミーティング時に研修を行い、それらを活用し支援しています。		
	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に管理者と家族で十分に、話し合っています。		
(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に聞き取りさせていただいています。申し出に対しては、全スタッフと検討し速やかに対応しています。運営推進会議にも参加して頂いています。	家族からは来訪時にその都度近況を報告しつつ意見・要望を聴いてサービスの向上に努めています。改善実施例として、廊下に夜間専用の小型電灯を設置、愛用マッサージ機の持ち込み許可、配膳の仕方の統一等があります。	
(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングにて意見交換をしています。	管理者は、月1回の職員会議や就業時の対話の中で、意見を聴き運営に反映しています。実施例としては、部屋の担当制の導入、夜勤日誌の記入内容の見直し、配膳の際のトレイの使用等があります。	
	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所においては、全スタッフで話し合い、業務の改善に努めている。給与水準など課題は多い。退職する原因の1つにある。		
	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修はあるがシフトの関係でなかなか全員参加することが出来ない。時間を作る様努力しています。		
	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、研修や管理者の集いに参加し交流はあります。型にはまったスタッフ同志の交流は有りませんが、時々顔をみせて下さる介護職の方はおります。		

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前情報を出来るだけそろえる。個々の意見を聞き受容する様努めている。		
	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安な気持ちや期待を傾聴し面会時には日常の様子を詳しく伝える。面会、外出、外泊も自由である事を伝える。		
	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の状況や情報をもらい参考にする。そして社会資源の中から本人にあった支援を提案している。		
	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごす時間を大切にかんがえている。本人の能力を見極め生活面で発揮できる場を提供している。		
	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との絆は、大事な事なので、面会、外出、外泊は、自由に行き来出来る様に心がけています。		
(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会は出来る。面会時間の制限はない。	殆どの家族が定期的に訪問しており、孫を連れて訪れることもあります。外出、外泊も自由で家族と共に外食、墓参りに出かける利用者もいます。いつでも面会できるようになっているので、気軽に訪れやすいホームである事がアンケートからも窺えます。	
	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアーには長椅子があり、玄関には縁台がありそこでは、昔話をしたり歌を唄ったりと利用者同士が関わっている。		

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、その後の様子を聞いて相談にのっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向は、良く傾聴しプランに立てる様になっている。	意向の把握の難しい利用者は、その人の生活歴を参考にして声をかけ、仕草や表情の反応から判読しています。又宗教の自由を尊重しており、利用者のお話を聞くように努めています。	
	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に聞き取りフェースシートにこれまでの生活の経過を記入し不穏の時などに参考にしています。		
	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日2回のバイタルチェック、個々の行動に気を配って「ケース記録」「申し送りノート」に記入し情報を繋げている。		
(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のミーティングにて介護計画とモニタリングをしている。日々の細かい点についても、その場で話し合い申し送っています。	初回の面接、アセスメントで利用者、家族の希望、意向を聞き、ケアマネジャーが計画を作成しています。その後は6ヶ月毎に職員会議を開き、医師、看護師の意見を参考にして、現状に沿った計画を作成し、見直しは必要な都度行っています。	利用者、家族が共に計画を作っているという意識を持ち、関わる人たちの意見を反映できるようにすることで、より身近で現実に即した計画の作成ができると思われれます。
	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「ケース記録」「業務日誌」を記入しスタッフ間で情報を共有している。		
	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われなない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	臨時の受診や個人的な買い物など家族と連絡を取り合って柔軟に対応しています。		

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お寺の敷地内にホームが有り近くには、神社も有りお祭りが時々あります。お店が並ぶと皆で出かけ、楽しむ事ができます。		
(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々に、しっかりとした主治医がついています。月1回の定期受診や往診をして頂いています。状態の変化時には、Drと家族に速やかに報告し対応しています。	利用者は月1回、内科医の定期健康診断を受けており、利用者の希望で職員が総合病院まで付き添う時もあります。専門医の受診には、家族が対応しています。	
	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、訪問看護師が来所し協力病院との連携が出来ているので安心して頂いています。夜間の緊急時にも対応して頂いています。		
	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院や入院出来る病院が近くにあるので入院中の面会など度々行き、状況や情報を把握する事が出来ます。		
(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の方の介護を行っています。「危篤時の判断」や「連絡方法」についてスタッフと話し合い、方針を共有しています。	看取りの方針を持っています。入所時に家族と看取り同意書を交わし、時期が来た時に再度家族と確認する事になっており、職員は危篤時の対応や連絡方法を話し合っています。最近看取りを行っており、現在看取り時のアンケートを関係者に行っています。	ある程度準備が出来ていたことや、看護師の的確な指示があったため、今回比較的速やかに看取りができたようです。今後は今回の経験や、アンケートの結果を参考にしながら、どの職員もできるようにマニュアル化と研修の徹底が望まれます。
	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	時々急変時や事故発生時の対応を確認し合っているが定期的には行っていません。		
(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練を行っています。近くからのスタッフが多いため協力をお願いしてあります。運営推進会議にも議題になります。	火災避難訓練は、年2回消防署の指導のもと実施しています。スプリンクラー、火災報知器、消火器、非常口が設置され、緊急連絡先、対応表も掲示されています。災害緊急時を想定し、発電機等も近所から借用できるようになっています。	早急に災害時の避難先・方法・連絡等を消防署に相談・決定すること、機会を見つけて夜間想定避難訓練を実施すること、備蓄の内容・数量の見直しが望まれます。

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格に合ったお付き合いを心がけている 余り方言で声掛けてしまうことがあります。	人生の先輩に対しての配慮を心がけ、トイレの声掛けをそっとしたり、尊厳を傷つけない言葉使いに努めています。	
	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	新しく入所された方には特に気を配って本人の訴えを傾聴し納得を得られる様ゆくりと対応しています。		
	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせた食事や生活をして頂きご本人の過ごしたい希望にそって支援しています。		
	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は2ヶ月に1回施設に来所する業者様に依頼しています。近くの美容院に髪を染めに行かれる方もいます。		
(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理をすることは出来ませんが、調理方法や味見をお願いしています。またテーブル拭きやお箸配り、後かたづけは、出来る方をお願いして、一緒に食事をいただいています。	利用者は、自分のできる事(配膳、下膳、テーブル拭き等)を手伝っています。職員が栄養バランスを考え、献立を作成、調理しています。利用者の要望は日頃利用者から聞いて織り込むようにしています。又利用者は行事食、外食、仕出し弁当等を楽しみにしています。	
	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みやレベルに合わせて食べやすい形態を工夫しています。摂取量や摂水量を記録表に記入しています。		
	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアと見守りをしています。		

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立位可能な方は全て、トイレ誘導し便座に座ってもらい排泄習慣を忘れない様介助しています。夜間のみオムツ対応している方がいます。	原則として、排泄チェック表に沿ってトイレ誘導を行っています。排泄面で自立している方が多いので、職員は見守りの対応を心がけています。	
	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、野菜の多い食事、運動、に気を配りDrと相談しながら排便コントロールを個々に行っています。		
(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	必要に応じて毎日入浴出来ます。入浴する、しない、は本人の希望を聞いて一週間に2回は入浴する様支援しています。	原則週2回入浴しています。浴槽には昇降機が設置され、利用者、介護者に負担が少ないように配慮されています。又季節感を味わうため菖蒲湯、柚子湯にしたり、健康管理の為随時足湯を行い、利用者から喜ばれています。	
	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝に関しては、自由ですが昼夜逆転が起きない様に休息の時間については本人と相談しています。		
	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援は、全スタッフが関わって、誤薬の無い様つとめています。症状の変化には、訪問看護師又はDr に連絡し症状に合った薬を処方して頂いています。		
	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力や希望により掃除、洗濯物を干す、洗濯物を畳む事など一緒に行っています。レクレーションにおいては、歌、パズル、ゲーム、貼り絵等行っています。		
(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じて、散歩など外出しています。家族との外出も希望に応じて行われています。年間行事の中にもドライブや外食を予定しています。	利用者は天気の良い日には、20分～30分近くを散歩したり、庭、境内で外気浴をしています。又外食に出かけたり、車の遠出を皆で楽しんでいます。只家族からもっと外出の機会があると良いとの声もあります。	

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、事務所で預かり希望により買い物をしています。時々ホームにパンやお菓子を売りに来る方がいるのでお買い物を楽しんでます。		
	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望のある人はいつでも電話を取り次いでいます。手紙も希望があれば、ポストに出しにゆきます。		
(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームで行った行事などの写真を貼ったり、季節に合わせた貼り絵を皆で作成したものをボードに貼っています。	全体的に明るく清潔で、ゆったりした広い共有空間を使い、ラジオ体操、パズルや黒ひげゲーム、歌等、利用者が快適に過ごせるように配慮しています。壁には利用者が作成した、季節を感じさせる折り紙、貼り絵や最近実施された南房総方面のドライブの写真が貼られ、参加者のいきいきとした表情が印象的でした。	
	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアには、テーブルが3台とソファが有り玄関には、縁台が有り、外を眺めたり、歌を唄ったりお話をされたりと楽しく過ごされています。		
(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真、仏壇、置物、ぬいぐるみ、など思い出のあるものを持って来られる方、愛用のマッサージ機に座られる方、各々の居室に変化があります。	居室には、家族の写真、仏壇、位牌、ぬいぐるみなど、思い出のあるものが持ち込まれています。又愛用のマッサージ機を持ち込み自宅に居るように快適に過ごしている方もあります。ホームとしても、居心地良く過ごせるように支援をしています。	
	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は、バリアフリーで、手すりを、多く設置してある。トイレは、便所と書いた札を使っています。		